

⑧  
B

二〇二六年度

国

語

問題冊子(二、一〇ページ)

注意事項

- (一) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- (二) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- (三) 解答は別に配付する解答用紙の該当欄に正しく記入すること。ただし、解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (四) 解答用紙左下に印刷してある受験系統コード、受験番号、氏名(カタカナ)を確認し、氏名欄に氏名(漢字)を記入すること。もし、印刷に間違いがあった場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。

〔解答用紙記入例(選択式の場合)〕

例一:〔語群〕が二桁で

11	大阪
12	佐賀
13	長崎
14	東京
とある場合	

例二:〔語群〕が一桁で

1	大学
2	中学校
3	高校
4	小学校
とある場合	

問 X	
16 / 2	A
18 / 4	B
20 / /	C

Aの解答が佐賀の場合  
 Bの解答が東京の場合  
 Cの解答が大阪の場合

問 X	
51 /	a
52 4	b
53 2	c

aの解答が大学の場合  
 bの解答が小学校の場合  
 cの解答が中学校の場合

〔一〕

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

歴史の年表は、時代が下って現代に近づけば近づくほど記載が密になり、時間の占めるスペースも大きくなる。あたりまえといえ<sup>a</sup>ばあたりまえのことだ。歴史は現在を到達点として書かれ、その現在の形成に意味をもつ事項が重視されるし、近い過去のほうが当然ながら情報量も多い。そしてこの「あたりまえ」には、歴史が現在の根拠づけだということと平行して、時間の流れに従って内実が豊かになるという「進歩」の観念がそのまま反映されている。だがそんな偏差をしばし御破算にして、かりに年表上のすべての時代が等分で、二〇世紀にもわずかなスペースしか割当がないとしてみたら、そこにはいったいどんな事項が書き込まれることになるのだろう。

共産主義とその終焉<sup>しゆうえん</sup>? たしかに一九一七年ロシアに登場した共産主義国家は、今世紀の世界にシンジ<sup>イ</sup>ンな影響を与えてきた。それは半世紀以上にわたって政治的思考の枠を規定し、各国の社会運動や植民地独立運動、その他さまざまな「解放」運動に階級闘争としての図式を与えたばかりでなく、世紀後半に文字どおり世界を二分した冷戦の**一極**をになってきた。だからこそこの世紀は、宗教の時代でも産業の時代でもなく、イデオロギーの時代と言われてきた。だがつい最近、ソ連の体制が破綻<sup>ぼたん</sup>して共産主義が店を畳み、この国家が徒弟に暇をやって広い「市場」に行商に出始めると、誰もがこの七十年の歴史を「失敗した実験」とみなし、今ではこぞってその痕跡を消し急いでいる。それがいかに多くの人びとの生を巻き込んだにしても、世界の風潮がそれ**をなくもが**な実験だったと言うのなら、これは世紀を規定する積極的な出来事としては扱われないだろう。

ではその共産圏崩壊の引き金にもなった「民主化」の趨勢<sup>すうせい</sup>はどうだろう? なるほど、だれもが一票の権利をもつという民主主義の **A** の原理が、それぞれの国の中でも国家間でも、世界的に浸透してきたというのは現代の顕著な傾向のひとつだ。

共産主義ももとはと言えば平等の理念から生まれたものだし、一九世紀資本主義の発展を支えた植民地世界もこの「民主化」の趨勢によって解消され、人種差別は少なくとも表向きには否定されるようになったし、性による社会的差別も是正される傾向にある。そうしてみるとソクラテス以来二千余年、はじめて民主主義が世界のフヘン<sup>□</sup>的的原理になったと言えるかもしれない。だがこ

れは、大量生産から大量消費へと転化した「マス」の時代における、人間とその社会の形式的な均質化という全般的趨勢とも絡んでいる。その形式的均質化の進行のなかで、人間はますます顔を失い、さまざまなレヴェルでの情報に還元され、非人称社会の量的なファクターでしかなくなつてゆく。だからこそ「差異」の原理が呼び起こされるのだが、その主張がまた、非人称性をもとによりいっそう強固な均質性を捏造して他者を排除する原理ともなっており、この錯綜したプロセスの帰趨はいまだ霧の中だ。

宇宙開発はどうだろうか？ 宇宙への飛躍は、大地を自明の環境として暮らしてきた人類にとって画期的なことだったにちがいない。地球の外に未知の経験の場が開かれ、そこから逆に地球が、まったく違う視線にさらされるようになった。このこの意味が小さかるうはずはない。この違う視線は、人間にとっての「存在」の拠り所だった大地を、よるべない球体としてコクウに宙吊りにした。それにまた、宇宙空間の体験は「他界」の観念を変えることになるかもしれない。それは、人間の手の届かない「彼岸」を、生活空間の延長上に引き寄せたのだと言えなくもない。とはいえ、それがただちに現代の人間を変えることになつたとは言いがたい。それどころか、人間はこれを新たな「征服」の一段階としか見ない傾向があり、結局はこの未知の体験も、馴れ親しんだ古い考え方や振舞いを補強するだけの結果になつている。だからとりあえずはこの新境地も、閉塞した世界で息苦しく暮らす人間にとつて、夏の夜の納涼花火のようなものにとどまつている。

そうなると、やはり二〇世紀に大文字で書き込まれるべき一項は「世界戦争」ということになるだろう。世界戦争を「第一次」、「第二次」と分けて呼ぶ必要はないし、世界「B」と表記してもまた誤解が生じる。なぜならそれはただ「大きい」だけではなく、政治、経済、社会、テクノロジー、あらゆる面から、戦争を世界化する条件が歴史的に成熟した結果だったからだ。戦争が世界化するということは、一地域の抗争があらゆる国の利害をからめていかなる国もそのキョクガイに立たせないということであり、世界のつながりができあがつたということだ。つまり世界戦争は、人間の世界が文字どおりひとつになったということ、理念的にでも原理的にでもなく、あからさまな現実として示したのだ。これが人類史上初めて実現された状況だということ  
は言うまでもない。そしてこの戦争は、ひとたび起こると二度目を呼び、三度目が起こらなかつたのはただ、それが  
によつて「不可能」になつたからにすぎない。

たしかに核エネルギーの発見と利用も、今世紀の特筆すべき事項ではあるだろう。テクノロジーは化学反応の次元から核分裂や融合の次元に突入した。だがその意味をもっとも劇的に示したのはやはり戦争だった。核兵器は人類、あるいは人間という種を新しい段階に入らせることになった。フランスのある作家の表現を借りれば、これによって人類は「自殺の能力を獲得した」のである。つまり人類の運命は一体となり、あたかも一個の人格のように全体的な反省意識の可能性を持った、あるいは持たざるをえなくなったということだ。核のボタンを押すとき、ひとは自分の運命だけでなく人類全体の運命を考えなければならぬからだ。猿が自殺しないということを考えれば、この「自殺の能力」の獲得は、人類にとって大きな

D

というべきだろうか、それとも災厄なのだろうか？

世界が一つになるのはなぜかといえば、それは他でもない地球が丸いからである。世界戦争はヨーロッパ文明の発展の極みで、それが丸い地球という限界に出会ったときに起こった。「人間」のハント<sup>ホ</sup>はどんなに広げても、球体の表面にしか広がっていないのだ。そのとき初めて人類は、自分の能力の外から課される限界に出会ったということが出来る。ヨーロッパ文明の伸長と軌を一にしてテクノロジーは発展し、人間にさまざまな可能性の領域を開いてきた。だがその威力は、核兵器が象徴的に示すように、この限界との遭遇以来、人間自身に覆い被<sup>かぶ</sup>さるようになったのだ。核兵器ばかりでなく、人間そのものを対象とする医療のテクノロジーや、環境問題として論議されている諸現象も、進化を続けるテクノロジーと「人間」の地平の限界との交差として考えることができる。いわばその交差の引き起こす衝撃のスパークが世界戦争だったのだ。そうしてみれば、世界戦争はやはりこの世紀をこの世紀たらしめた出来事だと言うことができるだろう。

——西谷修「戦争論」による——

問一 傍線部 a「あたりまえのことだ」というのはなぜか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 より新しいものごとの方が人々の目を「進歩」に向けさせ、過去への関心を失わせる傾向があるから
- 2 より新しいものごとの方が関心を持つ歴史家の数が多く、その論文も長くなる傾向があるから
- 3 より新しいものごとの方が変化のスピードが速く、それだけ年表に記すべき事柄も増える傾向があるから
- 4 より新しいものごとの方が現在に関わることがらとして注目を集め、重く見られる傾向があるから
- 5 より新しいものごとの方が過去の到達点を超えるものが多く、偉業として語り継がれる傾向があるから

問二 傍線部 b「ソ連の体制が、行商に出始める」とはどういうことか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 旧ソ連が他の共産主義国家を支配するのをやめて、代わりに資本主義国家を支配しようとしはじめること
- 2 資本主義国家が共産主義国家との競争をやめて、市場経済をより開かれたものにしはじめること
- 3 旧ソ連が共産主義をやめて資本主義国家になり、世界市場において経済力を高めようとしはじめること
- 4 資本主義国家が自分たちの経済圏に共産主義国家を取り込み、市場経済をより大きなものにしはじめること
- 5 旧ソ連が資本主義国家との交易を結ぶために、共産主義以外の国々にも商品売るようにしはじめること

問三 傍線部 c「なくもがなの実験」とはどういうものか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 なくともいい実験
- 2 なくてあたりまえの実験
- 3 なくてはならない実験
- 4 なくならねばならない実験
- 5 なくなってしまった実験

問四 空白部 Aに入る最も適当な言葉をこの空白部より後の本文から二字で抜き出せ。

問五 傍線部d「人間はゝなくなつてゆく」とはどういうことか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 個人が社会に情報を発信できる状況の中で、複数のアイデンティティを使い分けるようになっていくということ
- 2 人々の匿名性が高まり、互いの素性を詮索しないことが求められるようになっていくということ
- 3 大量生産と大量消費が当たり前になった社会状況において、似たような価値を求める人が増えていくということ
- 4 人間がさまざまなコミュニケーションに分断され、それを越えて情報を共有することが少なくなっていくということ
- 5 各人の持つ個性が捨象され、人が数値化されたデータとしてしか取り扱われなくなっていくということ

問六 傍線部e「霧の中だ」は次の四字熟語と同じ意味を持っている。空白部に入る言葉を漢字二字で記せ。

霧中

問七 傍線部f「この未知のゝ結果になつてゐる」とはどういうことか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 地球の外に未知の経験の場が開かれたことが、もはや大地には征服の余地がないことを気づかせたということ
- 2 宇宙開発という新たな出来事が、技術競争など昔ながらの行いを激化させるものになっているということ
- 3 地球という環境を脱出したところで、人類には生物としての古い段階を脱出する可能性はないということ
- 4 宇宙への飛躍という画期的なことが、人類の調和という以前からの課題を再認識させるものになっているということ
- 5 地球外へ生活空間を延長したことが、宇宙旅行という古くからの夢の実現を期待させるものになっているということ

問八 空白部Bに入る最も適当な言葉を漢字二字で記せ。

問九 空白部Cに入る最も適当な言葉をこの空白部より後の本文から三字で抜き出せ。

問十 空白部Dに入る言葉として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- |   |    |   |    |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 実験 | 2 | 進歩 | 3 | 希望 | 4 | 信念 | 5 | 危機 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|

問十一 傍線部 g「世界戦争は、言うことができる」のはなぜか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 二〇世紀に核兵器が開発されたことによって、人類は自殺する能力を獲得したと言うことができるから
- 2 世界戦争は、極限にまで発展したヨーロッパの科学技術が、二〇世紀に地球の表面を覆いつくしたことを示したから
- 3 二〇世紀に起きた世界戦争は、政治や経済などあらゆる面で人類の力を発展させることにつながったから
- 4 世界戦争は、二〇世紀に人類の影響関係が全地球的な規模にまで到達したことを明確に示したから
- 5 二〇世紀の世界戦争は、地球が丸い天体であるという事実を人類に気づかせるきっかけになったから

問十二 傍線部 イ、ホを漢字に直し、正確に記せ。



〔二〕

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

孝養<sup>けうやう</sup>のころさし深く思ひ立ちにし道なればにや、恐ろしう、はるかに思ひやりし波の上なれど、荒き波風にもあはず、思ふかたの風なむことに吹き送る心地して、もろこしの温嶺<sup>うむれい</sup>といふところに、七月上旬の十日におはしまし着きぬ。そこを立ちて、杭州<sup>しやう</sup>といふところに泊り給ふ。その泊り、入江のみづうみにて、いとおもしろきにも、石山の折の近江の海思ひ出でられて、あはれに恋しきことかぎりなし。

別れにしわがふるさとの鳩<sup>\*</sup>の海にかけを並べ

A

それよりこほうだうに着き給ふ。いとおもしろくて、人の家ども多くて、  
ぐさまどもいとめづらし。歴陽といふところに船とめて、それより華山といふ山、峰高く谷深く、はげしきことかぎりなし。あはれに心細く、「蒼波<sup>さうは</sup>路遠<sup>みちとほ</sup>し雲千里<sup>くもせんり</sup>」とうち誦<sup>ずん</sup>じ給へるを、御供にわたる博士ども、涙を流したり。

B

山越え果てぬれば、函谷の関に着き給ひて、日、暮れぬれば、関のもとに泊り給ひぬ。「この関は、鳥の声を聞きてなむ開く」といふこと<sup>c</sup>をしかと聞きて、御供の人の中にいはけたるものありて、「いざこころみむ<sup>d</sup>」とて、夜中ばかりに、鳥の声にいみじう似せて、はるかに鳴き出でたるに、関の人おどろきてその戸を開く。「いとよしなきこと<sup>e</sup>をしつるかな」と、人々言ひにくむを、君も聞き給ひて、「ふるき心<sup>f</sup>、さすがにおぼえけるにこそ」と、うち笑ひ給ふ。

明くる日、この関に御迎への人々参りたり。そのありさまども、唐国といふ物語に絵にしるしたる同じことなり。日本<sup>\*\*</sup>のてんふ渡いて関を入るるに、中納言ひきつくるひて、いみじく用意し給へるかたちありさま、光るやうに見ゆるを、この国の人々めづらかに見たてまつりおどろきて、めでたてまつることかぎりなし。昔のわうかくしやうのゐける高層に、中納言のおはしましどころ、心ことに玉をみがき、かかやくばかりにしつらひて据ゑたてまつる。

やうやうしづまりて、ふるさとおぼしやるに、雲霞はるかに隔てて、海山を分け過ぎにけるにつけても、人々のおぼしたりしさまどもの、あはれにかなしけれど、いつしか三の皇子<sup>\*\*\*g</sup>、とく見たてまつらむと思ふにぞ、よろづなぐさみ給ふ。



\* 鵑<sup>にほ</sup>の海……………琵琶湖の異称

\* \* てんふ……………入国通行証

\* \* \* 三の皇子……………唐帝の第三皇子で、転生した中納言の亡き父宮

問一 傍線部 a「られ」の文法的意味として適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- |      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|
| 1 受身 | 2 可能 | 3 存続 | 4 尊敬 | 5 自発 |
|------|------|------|------|------|

問二 空白部 A には次の言葉が入る。語の順番はこのままで、活用語は適当な形に活用させて記せ。

き 人 ぞ 恋し

問三 空白部 B に入る最も適当な国の名前を本文から二字で抜き出せ。

問四 傍線部 b「御供にわたる博士ども、涙を流したり」の理由として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- |                                     |
|-------------------------------------|
| 1 中納言のお供として遠いところまで来てしまったことを後悔したから   |
| 2 中納言の和歌や漢詩に関する知識の豊富さに感服したから        |
| 3 中納言が詠じた詩に込められた望郷の念に共感したから         |
| 4 中納言が遠くまで落ちのびてこなければならなかったことに同情したから |
| 5 中納言と一緒に荒涼とした景色を見て急に心細くなったから       |

問五 傍線部 c「しかと」、d「いはけたる」、e「よしなき」の意味として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- |   |   |      |   |        |   |        |   |           |   |        |
|---|---|------|---|--------|---|--------|---|-----------|---|--------|
| c | 1 | そうだと | 2 | しつかりと  | 3 | それしかない | 4 | かくかくしかじかと | 5 | しかたないと |
| d | 1 | 器用な  | 2 | ひょうきんな | 3 | 子どもじみた | 4 | いくじのない    | 5 | 知恵のある  |

- |   |   |       |   |       |   |        |   |      |   |      |
|---|---|-------|---|-------|---|--------|---|------|---|------|
| e | 1 | つまらない | 2 | 風情がある | 3 | もったいない | 4 | 役に立つ | 5 | 気の毒な |
|---|---|-------|---|-------|---|--------|---|------|---|------|

問六 傍線部 f「ふるき心」、さすがにおぼえけるにこそ」という発言は、かつて暗殺されかけた孟嘗君もつしようくんが秦から逃れる時に、夜間通行厳禁であつた函谷の関を従者が鶏の鳴きまねをして夜明けと思わせ関守に開けさせたという故事を前提とするものである。傍線部の発言の解釈として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 孟嘗君の知恵は今も人々を感動させつづけているのだな
- 2 この関所にまつわる故事が、思い出されたのだろうよ
- 3 昔から伝わる鶏の鳴き声のまねを覚えておいてよかったな
- 4 故事にもある古い手はさすがに通じなかったようだな
- 5 温故知新とよく言うが、本当のことだとしみじみ感じられるよ

問七 傍線部 g「とく見たてまつらむ」を十字以内で現代語訳せよ。

問八 本文の内容と合致するものを次の選択肢の中から一つ選び、その番号を記せ。

- 1 中納言は亡き父親が三の皇子に転生したとはいえ、父を亡くしたこと自体は悲しんでいた
  - 2 中納言一行が旅をしていると、行く先々で見物人が出てきて中納言たちに料理を振る舞った
  - 3 中納言が目にした杭州の海と琵琶湖は、同じ場所と見間違えるほど入江の様子が似ていた
  - 4 中納言は船旅のあいだ海が荒れなかったのは、自分が父親に孝行していたからだと確信した
  - 5 中納言たちが函谷の関を通ったとき、人々は中納言の立派な立ち居振る舞いを見て感心した
- 問九 「浜松中納言物語」は輪廻転生を題材とした小説「豊饒の海」の典拠になったことでも知られている。「豊饒の海」の他に「仮面の告白」「潮騒」「金閣寺」などの小説も書いた作家を次の選択肢の中から選び、番号を記せ。

- |   |      |   |      |   |      |   |       |   |       |
|---|------|---|------|---|------|---|-------|---|-------|
| 1 | 安部公房 | 2 | 井伏鱒二 | 3 | 遠藤周作 | 4 | 大江健三郎 | 5 | 三島由紀夫 |
|---|------|---|------|---|------|---|-------|---|-------|